

Market Flash

発表日: 2019年10月11日(金)

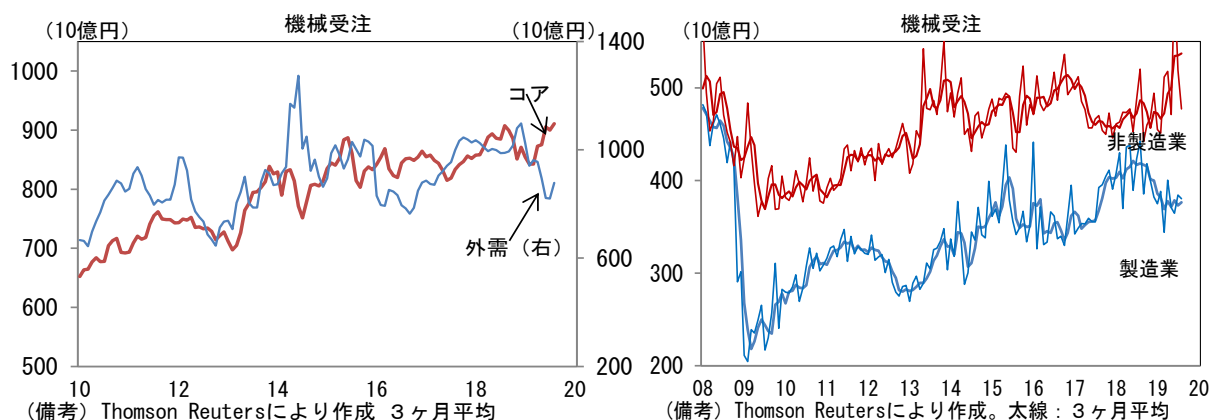
「電子計算機等」という存在 ～日経平均と強い連動性～

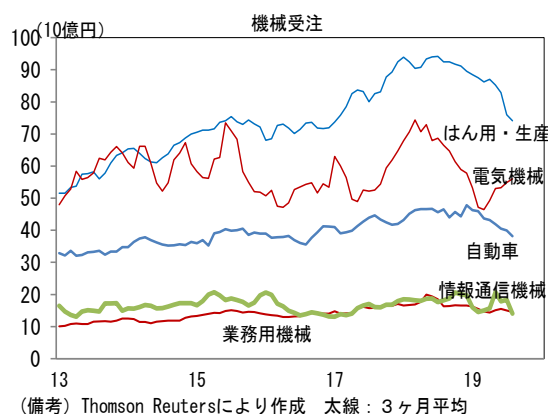
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

- ・日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き12ヶ月は23000近傍で推移しよう。
- ・USD/JPYは米利下げ観測が支配的となる下、先行き12ヶ月は105程度で推移しよう。
- ・日銀は現在のYCCを2020年末まで維持するだろう。
- ・FEDは予防的利下げを実施後、更なる利下げを実施するだろう。

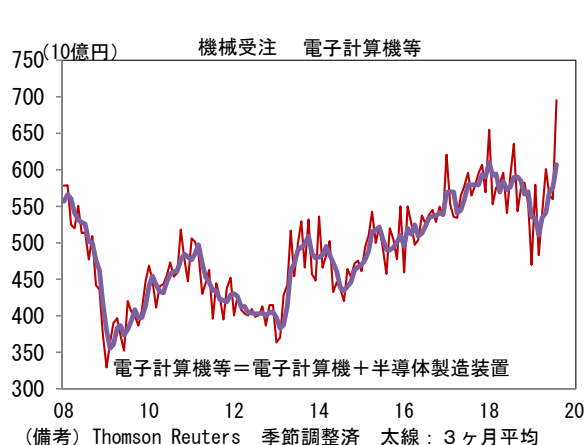
< #機械受注 #電子計算機等 #IT関連財 >

- ・10日発表の8月機械受注統計によるとコア機械受注（民需、除船電）は前月比▲2.4%と2ヶ月連続で減少。製造業が前月比▲1.0%と2ヶ月ぶりに減少し、非製造業も▲8.0%とマイナスであった。非製造業は2ヶ月連続の減少だが、これは6月に+30.5%と異常値的な伸びを記録した反動とみられ、基調的なものではないだろう。3ヶ月平均でみれば、全体が+1.2%、製造業が+0.9%、非製造業が+0.4%と何れもプラス圏にある。
- ・需要者別の動きを3ヶ月平均値でみると、製造業は自動車・同部品（前月比▲4.4%）、はん用・生産用機械（▲2.5%）、業務用機械（▲3.3%）、情報通信機械（▲23.2%）などで弱さがみられる反面、電気機械器具（+2.1%）が反発基調にある。世界的に製造業セクターの苦境が続くなか、IT関連財の在庫調整進展を背景に電気機械セクターが一足早く持ち直しに転じた模様。非製造業では運輸・郵便（+5.0%）、卸売・小売業（+1.2%）など人手不足業種からの引き合いが強い。また、これまで弱さが続いていた「外需」は前月比+21.3%と急増し、3ヶ月平均値でも+7.1%と持ち直した。資本財輸出が上向く兆候と認識される。





- ・機種別では半導体製造装置を含む「電子計算機等」がはっきりとした持ち直し傾向にある。原数値の前年比は+9.1%と伸び、3ヶ月平均でも+2.5%とプラス圏に浮上。筆者作成の季節調整値は前月比+9.1%と大幅反発。季節調整の不完全さによって強さが誇張されている可能性があるとはいえ、2018年初と同水準に到達し復調を印象付けた。3ヶ月平均では+5.5%と増加している（5ヶ月連続の増加）。
- ・日本株を読むうえで「電子計算機等」の復調は朗報。グラフをみれば一目瞭然だが、電子計算機等と日経平均株価には強い連動性がある。このことは景気先行指標としてのIT関連財データ（特に半導体製造装置）が如何に重要であることを物語っている。



【株式市場・アジアオセアニア経済指標】

- ・日本株は米国株高に追随して高寄り後、米中通商交渉の合意期待を背景に上げ幅拡大。日経平均は21800円近傍で推移している（10：30）。

【海外経済指標他】

- ・9月米コアCPIは前月比+0.1%と市場予想（+0.2%）を下回った。前年比では+2.4%と上昇一服。コアサービスが前年比+2.9%と高止まりするなか、コア財が+0.7%と上昇一服。ちなみに衣料品は前年比▲0.3%と落ち着いている。現在のところ関税の影響は確認されていない。

【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は上昇。米中通商交渉を巡ってトランプ大統領が楽観的な見方を示したことが背景。WT I原油は53.55^{ドル}（+0.96^{ドル}）。

- ・前日のG10通貨はGBPの強さとJPYの弱さが目立った。GBPの強さはジョンソン首相とアイルランドのバラッカー首相が「離脱合意」に向けて意見の一致が得られたとする報道が手掛かり。リスクオフが和らぐ下でJPYは売られ、USD/JPYは108を回復。
- ・前日の米10年金利は1.668% (+8.4bp) で引け。予想を下回る米CPIを受けて一時低下する場面もあったが、株式市場が上昇するなかで金利上昇。欧州債市場(10年)はドイツ(▲0.469%、+7.9bp)、フランス、イタリア、スペインが何れも金利上昇。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。